

多彩なイベント、文化行事。 好奇心は、創造力の源です。

君たちは何故大学をめざしているのですか？ 大学では何をしますか？ 河合塾では、勉強をアシストするだけでなく、もっと視野を広げ、現代社会の様々な領域の“知”と出会えるよう、知的好奇心を刺激するための多彩なイベント・文化行事を開催しています。それぞれの場面で何を考えるか？ 河合塾は君たちが新たな自己と対面することを期待し、君たち自身が進む道の探求を、応援していきます。

1994年度 エンリッチ講座プログラム（予定）

●最先端の研究

高木 繁（名古屋工業大学助教授）
山口昌哉（龍谷大学教授）
斎藤和季（千葉大学講師）

化学と医学の境界
フラクタル理論について
植物の遺伝子操作とその応用

●文化

ダグラス・ラミス（津田塾大学教授）

ガイジンもつらいよ—外国人から見た日本
吉野大作（河合塾講師）
芦川進一（河合塾講師）&高橋義人（河合塾講師）&中西光雄（河合塾講師）「夢」を語る

●時事問題

千本秀樹（筑波大学助教授）

国際化する現代日本における歴史の意味—外国人労働者問題と戦争責任問題
加々美光行（愛知大学教授）
関川夏央（評論家・ライター）

日本人のアジアへの眼差し
朝鮮半島の読み方

●環境問題シリーズ「水」

中西準子（東京大学教授 東京大学環境安全研究センター、工学部都市工学科）

水環境と水循環
富山和子（評論家）
萩原吉弘（監督） & 千島兼一（荒川源流の甲武信岳山荘主人）

ドキュメンタリーフィルム「あらかわ」上映＆トーク
そのほか、下記のテーマなどで交渉中

- ・民族
- ・日本の米
- ・戦争
- ・人口
- ・ゴジラ生誕40年
- ・コトバと言葉
- ・大道芸人
- ・演劇
- ・差別
- ・20世紀を考える
- ・血液
- ・フェミニズム
- ・日本の半導体
- ・コンピュータ
- ・国連
- ・近代文学
- ・脳死と臓器移植
- ・憲法
- ・勝負師
- ・大学の研究生活とは

沖縄のラテンバンド

●ビッグ・イベント ディアマンテス コンサート

7月19日

都合によりプログラムが変更になることがあります。
なお、日時・場所については後日告知します。

エンリッチ講座 プログラム

9月16日(金)
立川校
17:30~

ルワンダ難民「アフリカの悲劇の象徴」

講演者：伊藤正孝（朝日新聞編集委員
元・アフリカ支局長、元・朝日ジャーナル編集長）

9月27日(火)
駒場校
17:30~

近代における個人と恋愛

講演者：小森陽一（東京大学助教授）

9月27日(火)
松戸校
17:30~

光の工場から夢の工場へ—放射光の発生とその応用—

講演者：安藤正海（高エネルギー物理学研究所教授
総合研究大学院大学教授）

10月1日(土)
立川校
13:00~

8年目のチェルノブイリの子どもたち—地域医療に関わる医師として—

講演者：鎌田 實（諏訪中央病院院長）

10月3日(月)
千葉校
17:30~

文明としての憲法—「戦後50年」のひとつの見方—

講演者：樋口陽一（東京大学教授）

10月19日(水)
大宮校
17:30~

20世紀は「国境なき時代」か

—過去200年のヨーロッパ史を振り返って—

講演者：的場昭弘（神奈川大学短期大学部教授）

予定

- 日本の外国人労働者問題と戦後責任

講演者：千本秀樹（筑波大学助教授）

- 日本の食卓から見たアジアの農業

講演者：大野和興（農業ジャーナリスト）

- 山内敏弘 ●高木 繁 ●関川夏央 ●雪竹太郎 ●石坂 啓

ディアマンテス

DIAMANTES



激励
コンサート

日時

7月19日(火)

15:30開場

会場

目黒区公会堂

河合塾

(16:15~17:15)

(17:30~19:00)

アルベルト城間 (VO. AG. PER.)

1966年生まれ。ペルー出身の沖縄3世。1985年、19歳の時、南米各地で催された「日系人協会主催 南米歌謡コンクール」で最優秀オーカル賞を獲得。その賞品であつたペルー～東京の往復航空チケットで日本へ。祖父の故郷である沖縄へ渡つた彼は沖縄音楽に興味を持ち、三線&太鼓を就学、琉球古典太鼓で新人部門最高賞を受賞。ペルーでは建築大学に在籍していたこともあり、趣味はグラフィックデザイン。
今年の5月、念願の海外初公演をペルーで行い、故郷に錦を飾る。

ターボ (EG. AG.)

1959年生まれ。沖縄浦添市出身。現在ディアマンテスが本拠地としているコザのライヴ・ハウス「PA/TI」のオーナー。コンディショングリーンを見て影響を受け、本格的な音楽活動を開始。「オキナワ」そして「紫」のギタリストを経て現在に至る。

ボブ石原 (KEY. PER.)

1961年生まれ。沖縄コザ出身。ディアマンテスのリーダーであり、彼らが所属する石原サ

ウンド・プロダクションの代表者。スポーツ大好き人間で、音楽活動以外にもメンバーを集めてもテニスやバスケを楽しんでいる。将来はミュージカル制作が夢。

トム仲宗根 (B. CHO.)

1967年生まれ。沖縄浦添市出身。中学生の時、忌野清志郎と坂本龍一のユニットの歌を聞きカルチャーショックを受け、メイクをしたバンドを結成したこともある。楽しく踊れて、なおかつ哀愁のある音楽作りを目指す。

ホルヘ城間 (DRS. PER.)

1970年生まれ。ペルー出身の沖縄3世。従兄であるアルベルト城間の誘いで、2年前に来沖。「沖縄に来て好きなドラムを生かして音楽活動ができるなんて、とてもラッキーだと思う」と語る。アレックス・アクニヤのビデオを見ながらパーカッションを独学。ペルーでディアマンテスのコンサートをするのが夢だったが、今年の5月に実現。

ちあき (CHO.)

1972年生まれ。沖縄北谷町出身。母の影響で、子供の頃から歌い始め、演歌で多くのコンテ

ストに出場し、グランプリ獲得も数知れない。

パーティ (CHO.)

1970年生まれ。ペルー出身。ダンス&コーラス担当。来沖1年目にして日本語を流暢に使いこなす社交性はさすが。沖縄の心を失わず自分達の熱い気持ちをディアマンテスの曲を通して世界の人々に伝えたいと願っている。

けんじ (TRB. PER.)

1970年生まれ。沖縄コザ出身。趣味は釣りと野球。ディアマンテスのヒット曲「ガンバツヤンド」は彼の一番好きな言葉。

目黒区公会堂案内図

東横線 祐天寺駅下車 7分



キリトリ

コンサート＆激励トーク《入場券》

御
招

●塾生 グリーン・大受(

)クラス

No.

整理番号

●単科ゼミ・講習生 ●その他()

No.

氏名

河合塾

コンサート＆激励トーク《参加申込書》

御
招

●塾生 グリーン・大受(

)クラス

No.

整理番号

●単科ゼミ・講習生 ●その他()

No.

氏名

河合塾

環境問題シリーズ

水

第1回

日本文化と水と米

講演／富山和子（評論家）

司会／安藤紀典（小論文科）

「水田はダムである」と言いはじめてからもう20年になる。（中略）それまでは、水田をそのように見ようとする学問の分野すらなかったことも、『水と緑と土』に記した。以来同じことをくりかえし訴えつづけてきたが、それが急速に理解されるようになったのは6年前、『日本再発見 水の旅』を出してからであった。（中略）

水と日本人の歴史を語るということは、農業を語ることに他ならない。それゆえ水について書いてきたこれまでの私の仕事は、そのまま米の文化への評価でもあった。すでに十分書いてきた以上、改めて「米」と銘打って書く気は起こらず、ただ『水の文化史』など良く読んでいただきたい、と願うばかりであった。

その私を動かしたのは一にも二にも市場開放問題の緊迫した動きであり、さらに稻作を知らぬ子供たちがどんどん育っていくという現実であった。（中略）

このような実状を見るにつけ、外にあっては国際化が、内にあっては地方が語られる今の時代にこそ、私たちは、自己の文化を大地に立脚した確固たる視点でとらえておく必要がある。そんな思いで、この壮大な歴史の世界と取り組みはじめたのであった。（『日本の米』あとがきより）

富山和子（とみやま・かずこ）

昭和8（1933）年群馬県に生れる。早稲田大学文学部卒業。講談社編集者を経て現在評論家、立正大学短期大学部教授（環境社会学）、日本福祉大学客員教授。水問題を森林、林業の問題にまで深め、今日の水・緑ブームのさきがけとなつた。中央公害対策審議会委員、林政審議会委員、海洋開発審議会委員、瀬戸内海環境保全審議会委員、毎日郷土提言賞審査委員、地方の時代映像コンクール審査委員、環境庁「名水百選」選定委員など多方面に活躍。食と緑の博覧会顧問でもある。また、「富山和子がつくる日本の米カレンダー 水田は文化と環境を守る」（サン制作発行）を主宰。主な著書「自動車よ駕るなれ」（サイマル出版会）、「水と緑と土」（中公新書）、「水の文化史」「日本再発見 水の旅」（文藝春秋）、「川は生きている」「道は生きている」「森は生きている」「ひみつの山の子どもたち」（講談社）。「日本の米—環境と文化はかく作られた」（中公新書）。

予告

環境問題シリーズ「水」

第2回
水環境と水循環

講演者 中西準子（東京大学環境安全研究センター教授）

第3回
ドキュメンタリーフィルム
「あらかわ」上映＆トークゲスト（予定）
萩原吉弘（監督）
千島兼一（荒川源流の甲武信岳山荘主人）

6月14日（火） 18：00～
大宮校3A教室

第2回

水環境と水循環

講演 中西準子(東京大学環境安全研究センター教授
東京大学工学部都市工学科教授)

司会 環境問題研究会

吉野大作(漢文科)

永島廉司(漢文科) 三森一彦(漢文科)

私は、水道水の安全を100%追求できないことがあることを、フェーズルール(相律)を使って説明した。一定程度まで安全が保証されている先進国では、地球環境を破壊するようななかたちで自分たちの安全度を上げることは許されず、原則的には地球環境保全と両立させるかたちで実施するしかない。もし両立させる方法がなければ、やはり安全度をこれ以上に上げることはできないのである。

この課題は、実に重く、書きづらい。できれば書きたくない。しかし、やはり現実を厳しく見よう。きれいごとだけ書いていたのでは、地球は滅んでしまう。

『水の環境戦略』(岩波新書)より

.....

中西準子 1938年中國大連市生まれ。
プロフィール 1961年横浜国立大学化学工業科卒業。
1967年東京大学大学院工学系博士課程修了。
工学博士。
東京大学工学部助手などを経て、現職に就く。
専攻、環境工学。
著者一「都市の再生と下水道」(日本評論社)、
「下水道—水再生の哲学」(朝日新聞社)、「飲み
水が危ぶない」(岩波ブックレット)、「いのちの
水」(読売新聞社)、「東海道 水の旅」(岩波ジ
ュニア新書)、「水の環境戦略」(岩波新書)

7月1日(金) 17:30~
池袋本校舎4B教室

第3回

ドキュメンタリーフィルム

「あらかわ」上映&トーク

ゲスト 萩原吉弘(監督)

千島兼一(前甲武信岳山荘主人)

司会 松本信二(現代文科)

◆解説

1992年、11月。荒川上流にある滝沢ダムの地元合意が成立した。23年の歳月を経て、最後の反対同盟会が妥結したのだ。キャメラは、ダムを誘致した山村を起点として、源流から東京湾までの水系169キロに及ぶ荒川の水路を辿りながら、現在的な川の様相と水問題を、克明にルポルタージュしていく。そこには、自然と生きた山間の人々や、農民、漁民の生活が破壊されていく現実とともに、なおも膨れ上がる下流の都市がある。

今、世界は、近代化がもたらした功罪に気付き、バランスを失った社会の軌道修正が行われようとしている。その中で、私たち自身が、川をはじめとした自然にどう向き合っていくべきなのか、その答えを求めて、キャメラは、山や海に生きる男たちの肉声をフィルムに焼きつけていく。

◆推薦の言葉

東陽一(映画監督)

人間は自然に手を加えなければ生きられない存在だが、この映画はそれを批判するわけではなく、その節度を暗示する。ダム建設をめぐる現実の利害の外で、荒川源流近くに生きる人物と河口の海に生きる人物とが、偶然のように同じ一点、〈山〉について語る言葉が、その意味で感動的だ。美しい水の映像と加古隆の音楽がその主題を鮮明にしている。

7月2日(土) 11:00~
池袋南校舎9C教室

脳死・臓器移植

— 医療の場から人間の価値を考える —

諸君、御存知だろうか。脳死状態の患者を死体と断定し、その者から他の患者への臓器移植を認める「臓器移植法」が、早ければ今月中にも制定されようとしていることを。それは決して他人事ではすまされないし、ましてや、デイベートゲームの格好のネタには留まらない。その法律が制定された場合、脳死状態に陥った者のほぼすべてが、健康保険制度とのからみで、その状態で治療のストップを余儀なくされ、死亡と認めざるをえなくなる。たとえばこの一点だけとっても、臓器移植法は諸君の全員にかかわってくるものなのだ。

現在、その法律(案)をめぐる議論は、臓器摘出の同意が家族でよいのかそれとも本人でなければダメなのかといった、いたって手続的な部分

に縮少されている。だがしかし、そもそも脳死を人の死とすること、そして臓器移植を行うこと、それ自体にこそ甚大な社会的・医学的・法律的問題が日々存在し、それらはまったく解決を見ないばかりか、ほとんどまともに議論されてこなかったように思われる。「脳死状態の者はあとは死を待つのみ、臓器移植をすれば助かる人がいる。」諸君もまた、こうした一見説得力のある言葉にからめ取られ、その時点で思考を中断させてしまったのが、実情ではないだろうか。

そこで、長年この問題に精力的かつ真摯にかかわってきた医師阿部知子氏のお話しを通じて、より根元的に脳死・臓器移植問題を考え、さらには今回の法案を検討していきたいと思う。

(毎日94・4・13)

臓器移植法案の国会提出

患者ら期待と不安交錯

社会の里

待てぬ患者海外へ

「法成立後では手遅れ

各界の反応

脳死は人の死ではなし

移植法案

改正日
弁連刑法
審議会

6月16日(木)

17:30~

講師
阿部知子
(小児科医師)
司会
池田五律
(小論文科講師)

6月16日(木)
17:30~
千駄ヶ谷校
東校舎B21教室

毎日94·4·13

与党と自民、議員立法で

6月16日(木)
17:30~

毎日94·4·13